

研修報告書

講師名	法人研修 シンガポール
日時・場所	2015.11.14~11.19 シンガポール
【研修題目】:	
【研修内容・学んだ事・感想】	
シンガポール研修が決まり、事前にシンガポールの幼児教育について調べた。まずは、園には特色があり、制度、カリキュラム、管轄、園の目的などがある。	
1) チャイルドケアセンター	
管轄	MCYS (シンガポール地域振興・青年スポーツ省)
年齢	18ヵ月~6歳 (乳児保育をしている所は2ヵ月~)
年度	1月スタート 4学期制
言語	英語、中国語、第三ヶ国語 (日本語・韓国語、マレー語、タミル語)
開所時間	AM7~PM7
2) インターナショナルスクール	
管轄	MOE (シンガポール教育省)
年齢	2歳前後~就学前
年度	8月または1月スタート、2/3学期制 (夏休みが長い)
言語	英語、第二ヶ国語 (日本語・ドイツ・フランス語・中国語が選択)
カリキュラム	各国の幼児教育プログラム
3) 日系幼稚園・プレスクール	
管轄	MOE (シンガポール教育省)
年齢	2歳~6歳
年度	4月スタート
言語	英語・日本語
卒業後の進路	日本人学校への進学が多い

4) ローカル幼稚園

管轄 MOE (シニガポール教育省)

年齢 4~6歳

年度 1月スタート・4学期制

言語 英語・中国語・第三ヶ国語 (マレー語、タミル語)

カリキュラム ローカル小学校への入学を前提とし、オリジナルプログラムを行う。

以上が おおまかな違いです。

これから、子どもにどのような教育環境を選ぶかは、家庭の方針や事情によります。シニガポールは、日本以上に学歴社会、実力社会と言う事。公立小学校でさえ、高学年から学力別にクラスが振り分けられたり、テストにより進路が決まるシステムの為、乳幼児期から教育プログラムに力を注いでいるところが多いのが特徴です。

そのような環境を踏まえ、今回訪問した5つの園に共通していたのは、勉強時間が長い事。特に年長になると1日二時間しか外には出ず、英語や中国語の読み書きなどを行っていたと言う事だ。1つのクラスに英語を使う先生と中国語を使う先生が入り、子どもを保育している。日本も乳幼児期から英語教育に熱心だが、やはり、毎日耳に二ヶ国が自然と入ると言う環境でなければ、難しいと思う。

研修先始めの園: 『キャタピラー幼稚園』

こちらの園は、ヒルの中にも有、研究の為に出来た。

先生達は選ばれた人であり80%大学卒 → 他の園にはあまりない。

年齢 2ヶ月~6才 定員100名 英語、中国語

保育の特色 自分から関わる事を大切にしている。

どうやって学ぶかを訓練する。

しかし、親からは、小学校が教育熱心なので、ついて行けるか心配。どのような事が小学校で必要なのか、親とも話すか、つめ込みほしいとの事。

対数として

2才以下 保育士1対3(子ども)

2才 保育士1対7(子ども)

3才 保育士1対12(子ども)

4才~6才 保育士1対15(子ども) こちらはそれぞれの学年

しかし、サアで英語か中国語を話す職員がっている。

こちらの園は、ビルの中という事で賃貸料 35 ~ 45万ドルを払っている。狭い部屋なのに
デザインに頼み各教室には、大きな仕切りはなく、ロッカーや玩具の棚などで
仕切られている。

又、集団生活の中でたまには、1人で過ごした子のために、窓が閉まっている木の箱があった。
毎朝、登園時に熱を計る。←色々な先生が行う為、全クラスの子どもの夕前を把握
出来る。

熱の時は、37.5 ~ 38℃で、お血えのTELをするが、血えに来れない時は、隔離の
部屋がある。

ナーズはいないが、救急法などの勉強はしている。

障害児に対してどんな支援を行っているか？

普通の園には通わず、特別支援学級に行く事が多い。

3才児以下はお判断しない。

明らかに自閉症と親が合っている場合、普通の園には連れて来ない。

なぜなら政府が、将来この国に貢献するという概念がある。その為補助金
なども出していると言う事があるからだ。

感想としては、エリートの子供たちが教える保育とは何かと思っただけ、私たちが普段
子供たちと関わっている姿とは、変わった感じだった。むしろ、英語や中国語の市販のテキストを
使った子供たちに教えるのは、簡単である。私たちの保育でも、テキストを使う事は
ないが、普段の保育に教の概念を取り入れ、出席を取った時、友達を全員で何人いる
私のクラス(4才児)

か、教えたり、欠席の子は何人か、全員から欠席数を聞いた時、何人か？など、紙には
書いておいても、普段の保育の中で、そのような事に触れさせていくのも良いのではと
考えている。

2つ目の園は、**トウーバイトウーセンター**

小さいクラス (8ヶ月 ~ 2才半)

ナサリークラス (2才半 ~ 3才)

幼児 (3才 ~ 6才)

こちらの園もマンションの2階3階にある。

スクールバス有

登園時 検温有

遊びの中からバイリンガルに慣らすよう保育する。

聞く → 話す → 読む → 書く

担任は、各クラス 2名

午前中は、幼稚園として使い、午後はカラテ、科学、ダンス、数あそび、劇などの習い事として使う。小学校に上がる前の子対象

1科目	3ヵ月	300ドル	} 1時間 30ドル (3000円)
2科目	3ヵ月	550ドル	
10科目	3ヵ月	1700ドル	

4歳児 10%

(アフリカ、カンク、フィレン、ドイツ人などの子どももいる)

5歳児 7%

カリキュラムとしては、運動の先生が来園したり、パブリックスピーキング(園前で話の機会)を行ったりする。

外国語の子は、中国語を小学校で取らなくても良いが、この園を卒業した子は、中国語を選択できる。

感想 こちらの園は、カベに絵が描かれていたり、作り物が天井からぶら下がったり、特に乳児の部屋は、英語の音楽がかかり、先生が子どもに話しかけるといような環境に少々驚いた。又、2歳児クラスではアルファベットのプリントを1対1で行っている先生と全体を見ては先生とて"おもしろい"。

3歳児クラスでも中国語の絵本を9%の子1人1人が持ち音読を2~3回行った後、ワークブックを行っていた。フワフワ立ち歩く子も居なく集中していたが、2%ほど、どこをやっているのかついて行けないうちもいた。しかし、私たち見学者が14%ほど見ていても興味を示さず、勉強に集中していたので"すごい"と思った。逆に私のクラスでは、すぐに気がちる子が多いうちも思った。やはり小から5歳から1人1人に座らせる事も大事なのか... 考えてしまう感じだった。

3月 日本ト幼稚園

土地 3205坪 建物床面積 1020坪

クラス編成 準年少・年少・年中・年長

保育時間 月~金曜日 9:00~15:00

教諭 教育教員免許法による有資格者

準年少 1クラス 17% × 4クラス 日本の先生 + 中国系 2% プラ

年少 1クラス 26~28% × 4クラス 日本人の先生 + 中国系 2% プラ

年中 1クラス 24~25% × 4クラス 日本人の先生 + 中国系 1% プラ

年長 1クラス 26~29% × 5クラス 日本人の先生 + 中国系 1% プラ

合計 407%の子ども

卒業後 日本人学校 小学部 83%、本帰国し日本の小学校 16%
 インターナショナルスクール 1%

特色として、日本人有資格教諭による日本語での保育

- ・年中児より文字・数の指導を行う。
- ・日本古来の伝統文化や行事を体験する為 和太鼓を使いゆかたを着ての夏こども祭り。日本の季節を感じさせる為 現在(11月)は、ロビーにもみじのレプリカが置いてあり、壁には、温泉の壁面が貼られていた。又トングリやまっぼ、くりなどが手に取れるよう飾られていた。
- ・勉強面では、英語教師による遊びや歌などから楽しく英語を学ぶ音やリズム遊び、ヒップホップを導入し楽しく遊びながら表現する力を養う。
- ・毎日、外遊びや体育講師による授業もある。

園バス 22台 14:30以降出発

給食は、中国人が作るが和食である。除去食対応

通園してくる子 日本人 80% 20%はハーフ

両親共に外国人の子は 2人くらいない。

↳ 手紙等も日本語なので理解出来るがよい。

日本語に力を入れるのは、3年~5年で両親の任期が終了日本へ帰国してしまうから。日本へ帰った時 日本の授業について行けるように指導している。

幼稚園の為 両親が働いているケースは少ない。

延長保育も緊急時のみ 15:00~16:00

感想 こちらの園に入った時 日本語での保育で少しホッとした感じがした。それと引き替りに、同年代より若い先生たちが日本から離れ外国で保育の仕事についている事に感謝を受ける。私は、英語が苦手な部分がある為 外国で働きたりなどとは1%も考えた事がないからだ。こちらの幼稚園も12月に保育発表会で劇の準備をしているとの事。我々園も12月におたのしみ会国境は越えてもやっています事と同じだ。ほっと改めて思った。
 があり

4つ目 『タッチチャイルドケア幼稚園』 ボランティアで行っている。保助金有
 公団住宅の1階で行っている。

- ・障害児の受け入れ有 (学習障害、自閉、ダウン症等) 9人枠有

現在特別支援児 2人。

1つの部屋を真ん中でくぎり、年少と年長のクラスがある。

↳低い柵などで分かれている。

その為両クラスの音が混じり合っていたが、この園では、行動的な音と言っている。

年少は、1つのクラスを3つに分け、遊んでいた。

こちらの園は、障害児に対しても力を入れている。(自閉、ダウン、耳が聞こえない、目が見えにくい子への支援を行う。この子たちを小学校に入学させる為に。)

これより重度な子は特別支援学校に行く。

保育時間 7:00 ~ 19:00

他児も一緒に生活していくうち、特別な目で見えない人を助けるやさしい気持ちがある。「ビックハート」

感想 この考え方は、日本の教育とも同じだ。一番初めの園のように政府に将来貢献出来る子の補助金を出すと云うのもどうかと思う。

又、その子の成長に合わせて年中も2度行く、年少も2度行くなどもあると思う。

どの子にも平等な保育を受けさせられる日本は、とても良いと思った。

5日目 ELF 幼稚園 高級住宅地の中の一軒家

8:00登園

9:00朝食が出る。

その後、外でバランスを取りやすい遊び、トランポリンなどを取り入れている。

七田智イルドのフラッシュカードを使っての勉強も取り入れている。

小学校は、7:30~12:30の為、その後の学童保育としても使っている。

又、ミニカホールの観光地を代表するプレゼンテーションのやり方なども教えている。

お金の使い方なども小さいうちから教えているとの事。

感想 こちらの園長は、目のセラピストと言う事もあり、セラヒーもある場所なども保育室の隣りにあった。又、学習障害の子にも対応しているとの事。

固定遊具なども大型でかわいい物が沢山置いてあった。さすが高級幼稚園という

感じだった。又、フィンランドから講師を呼ぶ

↳教育は世界トップクラスしかA、B、Cは小学校から指導

保育士は医者と同じ給料だがすべて大学院卒との事。国が愛用する

立場も違っているのでは~と思った。日本では、なぜか保育士という仕事は、

それほどの位置ではない。最近、待機児童が多くなり保育士に対する関心も

高くなってきているようだがまだ「また」だと思ふ。

〔感想〕

シンガポールという国は、とても教育熱心なんだと改めて思った。

幼児期から最低でも二カ国語(英語・中国語)を学べ羨ましい環境である。日本の教育でも英語を6年間行うが苦手の方が多し。英語の取り入れ方に問題があると考え。最近は、小学校、保育園などでも取り入れるようになって来たので大きな進歩だと思った。やはり、まず楽しいと思わないと自分から学ぶという気持ちが出来ないと思う。

又、もう一つ良い点と思ったシンガポールの教育だが、人の前で自分の意見を話すという訓練だ。年長組になるとプレゼンを行う園が多いという事だ。

年長になって突然行うのではなく、他学年からの積み重ねという事だ。

日本でもプレゼンの仕方などの授業も中学・高校から多く取り入れられて来たが、何事も幼い時期からの方が子どもたちも自然に身につくのではないかと考えている。

今の若者は、指示待ち人間が多いと言われている。分からない事をすぐ聞くのではなく、自分で調べる力、なぜそうなるのか?など向上心を持つ子、色々な事に興味を示す子になるよう今後も楽しい保育を行っていきたい。

素晴らしい研修に参加させて頂き感謝致します。

又、13名の各園の先生方とも知り合い情報交換出来とても羨ましかったです。

ありがとうございました。